令和6年度 学校関係者評価議事録

- 1、日 時 令和6年6月10日（月）午後1時～午後3時46分
1、場 所 学校法人岡崎学園（通信制課程校舎） 会議室
1、出席状況 出席 計13名

【学校関係者委員】計6名

- ・ 矢内 昭秀 氏（大阪ダイハツ販売株式会社）
- ・ 車谷 知紀 氏（竹菱自動車販売株式会社）
- ・ 奥田 恵造 氏（関西大学 職員）
- ・ 三浦 哉子 氏（学びリンク株式会社）
- ・ 大矢 敬道 氏（黒田寺 副住職）
- ・ 佐々木 大介 氏（正定寺 住職）

【説明者】計7名 ※令和5年度の役職に基づき説明者を決定

- ・ 岡崎 泰道（学岡崎学園 理事長）
- ・ 太田 功二（東朋学園高等学校 前校長・東朋高等専修学校 校長）
- ・ 中田 博隆（大阪自動車整備専門学校 校長）
- ・ 永田 淳義（東朋学園高等学校 前教頭）
- ・ 船井 英伸（東朋高等専修学校 普通科 前教頭）
- ・ 山田 晃子（東朋高等専修学校 総合教育学科 教頭）
- ・ 勝間 祥子（学岡崎学園 法人本部 事務局）

欠席 計1名

【学校関係者委員】

- ・ 東本 秀雄 氏（町会長）

- 1、議 案
- 第1号議案 自己点検評価、保護者等のアンケート集計結果報告
第2号議案 第1号議案における各評価項目に対する意見交換
第3号議案 大阪自動車整備専門学校の校舎建替え及び移転の状況報告
第4号議案 各施設の今後の運営計画について

議事の経過及びその結果

上記のとおり出席があったので、理事長が議長となり定刻開会を宣し、議案の審議に入った。

第1号議案 自己点検評価、保護者等のアンケート集計結果報告

議長は、各学校の説明者へ自己点検・自己評価の報告を指示した。

各学校の説明者はそれぞれの報告を説明し、各項目に対する反省点及び改善点を説明した。

また、保護者等のアンケートの集計結果を報告し、それぞれの項目における懸念事項や継続

していくべきと考える事柄を報告した。

学校評価委員は自己点検・自己評価に関し、内容に問題はなく適切であると評価した。

第2号議案 第1号議案における各評価項目に対する意見交換

議長は上記評価項目に対する改善点等の報告を踏まえた上で、今後どのように取り組むべきか意見を出してもらいたい旨を伝えた。

委員の意見として、継続している事項においても現状維持が適切であるかどうか、毎年必ず検討すべきであるとの意見があった。また、子どもの数の減少に伴い子ども一人ひとりにかける教育の内容であるとか、費用などの観点が変化してきているのではという意見があった。そのことからニーズに合った教育における『特色』が他との差別化となる。そのニーズを把握することが難しいことではあるが、その意識は教職員全体が持つべきであるとの意見があった。

各評価項目における評価委員からの具体的な意見は、別途学校関係者評価 報告書に記載する。

第3号議案 大阪自動車整備専門学校の校舎建替え及び移転の状況報告

平成29年度より検討を重ねてきた専門課程の校舎建替え及び移転の状況について、大阪自動車整備専門学校の校長より進捗報告を行った。

令和5年10月より、予定していた旧生野南小学校に移転し、大阪自動車整備専門学校として運営している。地域の活用はそのまま引き継ぐ形で運営しており、特に大きなトラブルもなく、地域の方々にも教育活動を優先する形で色々のご理解をいただいている。

地域イベントの実施や貸農園については現在準備期間であり令和8年度以降に本格的に始動していく予定である、との報告があった。

校舎建築は令和6年7月より着工し、令和7年12月から令和8年1月の間に竣工予定である。

第4号議案 各施設の今後の運営計画について

各施設の今後の運営計画について、理事長より説明があった。

大阪自動車整備専門学校は令和8年度より新校舎での教育活動がスタートする。新しい校舎・設備で教育が受けられる、ということ存分にアピールして生徒募集に取り組んでいく予定である。また、7年度まで使用していた旧生野南小学校であるが、8年度から東朋学園高等学校の分校としての活用を検討していたが、移転するという結論に至った。すでに大阪府私学課に相談を進めており、令和6年度中に届出を完了する予定である。

東朋高等専修学校は令和7年度、校舎の隣の土地・建物を取得し、さらに令和8年に東朋学園高等学校が移転した後、その校舎も東朋高等専修学校が取得する。東朋高等専修学校は入学希望者の増加が著しく、希望するすべての生徒を受入れてほしいという各中学校からの強い要望に応えるため、計画した。それに伴って教育内容のさらなる充実も視野に入れ、コース編成の変更も検討している。

この数年で各校、また岡崎学園自体が大きな変化を迎える。銀行からの借入も行う事から、今

まで以上に経費の使用については注視し安定した運営を行うため一層の管理体制を強化する。
運営にあたり、委員の皆様のさらなるご指導・ご鞭撻をお願いしたい、との説明があった。

閉会に際し、議長は最後に各委員の方にお礼を申し上げ、多様化が顕著な現社会において、学園の軸となる専門教育・支援教育は現代のニーズに合ったものであると自負しているが、生徒一人一人の教育的ニーズに対応するため、教員自ら指導面での専門的な知識や技能の向上に向けて努力し、関係機関とも密な連携を取りながら、教育活動を行っていく。そういった教職員の質の向上を始め、教育カリキュラムの充実を図る旨を申し伝えた。

また、多額の借入を行うにあたって、計画に沿って堅実に運営していくことを述べ、学園の安定した経営を図るとともに、今後に向け、皆様方からの温かいご支援とご協力を賜りますよう、お願いを申し上げ、本委員会会議は午後3時46分に閉会をした。